

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク

3つのワークを大切にし、実行できる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組み推進。

(1) ノートパソコン等の端末を授業で活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。

(2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。

(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援するために、進路講演会及び放課後や土曜日を活用した無償・有償の講習を行う。授業も含め、学習動画の取組みを導入し、取組みを充実させる。

(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。生徒授業アンケートも活用し、授業指標である「桜塚教科スタンダード」やシラバスの見直しを行い授業力の向上をめざす。

(5) 「桜塚の総合的な探究の時間」をまとめていく。新しい大学入試を視野に入れた記述力の養成等の取組みを充実させる。幅広い科目の学習を進んで行い、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身に付け、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。

(6) 朝学（総合基礎）を充実させ、基礎的・基本的な学力の確実な定着・充実に努める。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿]を実施して、入学直後から自らの進路実現のため真摯に努力する態度の涵養を図る。

(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数も増える取組み推進。(利用者数の前年比10%増)

(8) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [GSC] とグローバルスタディサイエンスコース [GSS]）制を生かし、生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、第一希望の進路実現を図る。国公立大学30名合格を目標とする。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価（H29 60.3% H30 59.2% 令和元年 62.4%）を向上させ、令和4年度には70%をめざす。

(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。

2. 人間力をつけること、規律、安全安心について

(1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。規則を守り、礼儀に気をつける。

(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。

(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。

(4) 体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。

※ 年間延べ遅刻者数（H29 3,489人 H30 3,639人 令和元年 2,539人）を減らし、令和4年度には、延べ2,000人以下をめざす。

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

(1) OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の期間との連携と支援を生かした取組みを展開する。

(2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。H30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。

(3) 広報活動を積極的に行う。WEB Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。

※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価（H29 65.0% H30 62.0% 令和元年 68.2%）を増やし、令和4年度には、70%をめざす。

4. グローバルリーダーの育成

(1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。

(2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※ 国際交流活動等に取り組む学校教育自己診断に肯定的評価（H29 79.6% H30 82.4% 令和元年 84.3%）を増やし、令和4年度には、85%をめざす。

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化

(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。

(2) さらなる教育力発展のために、新教育課程開始時には土曜授業を廃止する。教育課程の編成時に朝学の枠組みの改定も検討する。

(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。

(4) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。新たに創設した「情報部」を機能させる。分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みを推進する。

(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。

(6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。

ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均45時間未満をめざす。

(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図る。

6. 個人情報等の適正管理

(1) 個人情報等の適正管理をめざす

(2) 備品等の適正管理をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><生徒対象教育自己診断></p> <ul style="list-style-type: none"> ・26項目中17項目(65%)において肯定率が増加した。教職員集団による日頃の教育活動の成果であり、学校として嬉しい結果である。特に、授業における満足度が大きく増加したことについては、授業改革に向けた教員個人の研鑽はもとより、授業力向上等検討委員会を軸とする組織的取組みの推進が生徒の満足度に繋がっていると思われる。学習指導要領の改訂、あるいは国の「GIGA スクール構想」による1人1台端末を活用した教育が始まろうとしているなか、引き続き、生徒にとって必要な力の模索、そしてその力をつけるための効果的な教授法をテーマにした組織的研鑽が必要である。 ・「先生は協力して生徒指導にあたっている」(76.2%) <(H30 72.6% R1 74.2%)>、「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」(72.3%) <(H30 68.8% R1 70.0%)>と、生徒指導に関する肯定率は2年連続で向上した。日頃から、先生方が一枚岩となりながら丁寧に指導をしている姿、そして生徒の成長を願う思いが生徒にも伝わっていることが伺える。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」(85.3%) <(H30 78.1% R1 78.7%)>、「進路についての情報を知らせてくれる」(87.8%) <(H30 79.1% R1 83.7%)>とキャリア教育に関する肯定率も2年連続で向上した。進路指導部、担任が窓口となりながら、丁寧かつ適切な指導を行っている結果と言える。今後も、HRや探究の時間を活用し、自己実現に向けたサポートを充実していく必要がある。 ・「部活動に積極的に取り組んでいる」(78.9%) <H30 78.7% R1 79.4%>が、わずかながらも減少したのは、コロナ感染症の影響であると考えられる。 ・「人権について学ぶ機会がある」(85.2%) <(H30 69.2% R1 77.6%)>は2年連続大幅に向上した。生徒全てが安全で安心した学校生活を送ることはもとより、今後ますます進むグローバル化や高齢化などの社会の変化を生きる力を育成するためには、「自己肯定・他者理解」両面からの人権教育は必要不可欠である。「部落差別問題」などの不易の課題から、「性的マイノリティー」などといった日々情報がリニューアルされるような課題まで、多岐にわたる人権教育をおこなっていくことは高校教育の根幹のひとつである。 ・本校における人権教育の充実、ならびに教職員集団の人権感覚(カウンセリングマインド)の向上が、「学校では挨拶が自然に交わされている」(78.5%) <(H30 68.3% R1 71.2%)>、「先生は、いじめや相談事について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(79.1%) <(H30 69.5% R1 71.1%)>といった生徒の安全で安心な学校生活に関する肯定率向上に繋がっている。 ・「他の先生が授業を見に来ることがある」(66.9%) <(H30 73.2% R1 80.8%)>が減少したのは、今年度授業観察の方法を重点化(テーマを設定し、一部の研究授業を見学する)したためである。教育改革が進む中においては、テーマを絞った研修が求められる。今後も、より効果的な方法で実施することを模索する必要がある。 ・「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」(66.0%) <H30 65.8% R1 69.6%>が、昨年度から3.6ポイント減少した。コロナ感染症の影響もあると考えられるが、今後Google Classroomを活用するなど、生徒がわからないところを質問しやすい場面の創出が課題である。 ・「担任の先生以外に相談することができる先生がいる」(54.7%) <H30 57.6% R1 62.2%>は、昨年度から7.5ポイント減少した。生徒の多様化が進むなかにおいて、生徒相談体制の充実は大きな課題である。担任団、教育相談委員会を軸に、さらなる体制の充実が求められる。 <p><保護者対象教育自己診断></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもは桜塚高校に行くのを楽しみにしている」(81.1%) <R1 84.8%>、「桜塚高校の部活動は活発だと思う」(80.4%) <R1 83.2%>、「桜塚高校のいろんな教育活動を通して子どもの成長を実感できる」(75.4%) <R1 77.1%>が、昨年度より3～4%減少したのは、新型コロナウイルス感染症が少なからず影響しているものと思われる。 ・「子どもが授業がわかりやすいと言っている」(61.2%) <R1 50.6%>が昨年度より10.6ポイント増加した。6割強という肯定率については、まだまだ向上が望まれるところではあるが、教職員の元気に繋がる結果と言える。日頃の教員の研鑽が生徒を通じて保護者に伝わったものと思われる。 ・「桜塚高校では、生徒に対するプライバシーや人権が守られている」(91.3%) <R1 91.5%>は、今年も高い肯定率を示した。教育活動における基盤であり、引き続き、組織として徹底する必要がある。 ・「桜塚高校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」(89.6%) <R1 88.0%>は、ここ数年9割弱と言う高い肯定率を示している。今後、保護者連絡用一斉メール配信システムに加えて、学習支援クラウドサービスを活用し、さらに保護者との繋がりを強化するとともに、ペーパーレス化も推進していきたい。 ・「桜塚高校には他の学校にない良さ(特色)がある」(68.6%) <H30 78.2% R1 73.6%>の肯定率が2年間で10%も減少した。後述する教職員自己診断においても同様に減少している。今後、ますます進む少子化を考えると学校の特色づくりは喫緊かつ重要な課題である。「魅力あるカリキュラム」、「活発な行事・部活動」、「地域連携の深化」、「国際交流活動」などを通して、さらなる本校の魅力アップを進めていく必要がある。 ・「子どもは、家庭でよく話をする」(72.7%) <R1 80.7%>、「子どもの様子は、よく把握している」(77.1%) <R1 83.1%>の2項目が、2年連続で減少している。このことが、保護者の「学校を通じて子どもの様子を知りたい」というニーズの高まりに繋がることが十分に考えられる。また、学校からの発信についても、生徒を通してはなかなか難しい状況であるため、重要な連絡をおこなう際には、確実に保護者に届ける手段を模索する必要があると思われる。 ・最も低かったのは「桜塚高校の施設・設備は学習環境の面で満足できる」(55.6%) <R1 45.4%>の肯 	<p>【第一回】<7月8日開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援クラウドサービスによるオンライン授業に取り組まれたこと、先生方は大変だったと思います。アンケートでは良い結果が出ています。 ・土曜授業の廃止が後退と受け取られないよう、教育方法の改革が前面に出ることが、生徒保護者の満足度に出ると思います。 ・授業改善については教科会議など教科での十分な協議だけではなく、教科横断的な議論が必要だと考えます。他教科の取り組みが参考になることも多いと思います。 ・オンライン授業アンケートについて、先生方も生徒さんも初めてのことで色々あって大変の様子ですが、さすが桜塚の先生方と生徒さん、頑張られたようで安心しました。授業とオンラインの両方の日では登校に1時間ほどかけて登校している生徒さんにとっては、大変だったとのことと新しい発見ですね。 ・学校経営計画及び学校評価について、校内的なルール(服装やピアス等)は守られているようであるが、交通ルール(自転車マナー、商店街での登下校の様子)を守るようにすればと思います。地域に向けての確認できる文言が欲しいと思います。 ・3中校区のすこやかフェスタや敬老の集い桜塚校区に参加いただき、ラグビー部による子供タグラグビー指導にもご協力いただき感謝します。また、「地域とともに」として、数年前より防災の取り組みも考えてくださっていますので、できれば地域での防災訓練等に生徒が参加していただければよいと思います。 <p>【第二回】<12月11日開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路状況について、昨年度の大学入試では、今年度の制度変更が国から予定されていたので、行きたい大学をあきらめた人も多かったのではないのでしょうか。センター試験に代わる共通テストへの出願者の内、既卒者が全国で2万人弱(15.1%)も減少したことにもあら現れています。そういった中で進路指導に大変苦労されたのではないかと思います。さらに今年は加えてコロナのせいで先を見通せない状況かと思えます。是非日ごろからの大学等との連携を継続強化していただきますようお願いいたします。 ・コロナ感染拡大のため、対面での部活動・行事等が難しい状況があると思いますが、今後のAI時代に生きる生徒の将来を考えると、遠隔での活動等をうまく活用していく力を身につけることも大切であると思います。 ・生活指導面において、遅刻指導に力を入れて成果を上げていることは、大切なことと感じます。社会生活の基本をしっかり身に付けることの指導を、是非継続していただきたいと思います。 ・学校経営計画について、確かな学力への取り組み等、教職員がよく頑張っていると思います。学力・人間力・地域連携・国際交流等の取り組みの前提となる、一人一人の将来像を自ら考え、実現に向けて努力する力を養うことが大切であると思います。そこに大切なことは、具体的な将来像を描き、そこへの道筋を計画することと、それを支える自己肯定感の醸成であると思います。数値的な結果指標も大切ですが、理念に基づいた取り組み指標も大切だと思っています。 ・感染症対策のために、行事の精選や規模の縮小などが求められています。今一度各行事の教育的な意義・目的を明確にする必要があると感じています。 ・遅刻や服装についての生活指導は、中学校でも同様の課題があり、発達年齢を踏まえたうえで、校種間(小中高)の情報交換も有益と思われます。 ・学校経営計画について、オンライン授業については、積極的な取り組みを展開されてきましたが、ICTを活用した授業づくり等、引き続き継続した研究が必要と思われます。また、先生方が多忙な中で、定期的に研究協議ができる「教科会」などの時間確保が課題と感じます。

府立桜塚高等学校

定率であった。トイレ等の老朽化は致し方ないものの、学習環境の面から言えば「ネット環境の充実」という課題がある。現在行っている Wi-Fi 環境の増強等でどのように改善されるかが大きな要素である。

<教職員対象教育自己診断>

- ・「各教科において、教材の精選・工夫をおこなっている」(97.9%)については、例年高い数字を示していたが、今年度は極めて高い値であった。今後、教育改革が進む中において大変重要なポイントである。
- ・「生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応する体制が整っている」(89.3%) < (H30 70% R1 78.9%) > は2年間で20%と大きく増加した。また、「生徒指導において家庭と緊密な連携ができている」(93.6%)についても、昨年度より7%増加した。生徒指導課題が年々複雑化・多様化する状況の中において、組織的対応の推進、保護者との連携、専門家や外部機関との連携等はとても大切な観点であり、この項目の肯定率が向上したことは、本校生徒指導力がアップしていることを示していると考えられる。
- ・「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」(93.7%)、「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」(95.8%)の項目が昨年度から大きく向上した。教職員のカウンセリングマインドの向上はもとより、組織的対応が進んでいることを表している。今年度から新たに設置した「いじめ対応委員会」は、いじめの早期対応に機能を果たした。今後も、ネットワーク・フットワーク・チームワーク溢れる組織により、生徒が安心して学校生活を送ることのできる学校づくりを進めていく必要がある。
- ・「本校の校内研修は、質・量ともに充実している」(70.9%)は、昨年度比11%アップ、一昨年度からは22%も増加した。研修は、負担<効果(満足感)が実感できるものでなければならない。今後も内容を精選しながら「為になった」、「今後に活かせる」といった研修を進めていくことが大切である。
- ・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(74.5%)は、2年連続で大きく向上した。今後、学校が抱える課題の複雑多様化や新陳代謝が進む中、「オール学校」での課題解決や改革をおこなっていく必要がある。今後も、教科や分掌を横断した組織力アップに向け、首席が軸となりながら、風通しの良い職場環境を整えていくことが大切である。
- ・「本校の教育活動には、他の学校に無い特色がある」(72.9%)が大きく減少した(昨年度比11.8%減)。上記した通り、ますます進む少子化を考えると学校の特色づくりは喫緊かつ重要な課題である。『「中学生・保護者」、「在校生・保護者」にとって、魅力ある学校づくり』に向け、今後も「オール桜塚」の体制でマンパワーを結集し、邁進していかなければならない。
- ・「年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」(70.9%)は今年度大きく(昨年度比-11%)減少した。教育改革が進む中、指導計画の策定、それに基づく教科内での情報共有や相互研鑽など、教科のメンバーが一丸となった教科教育が求められる。普段から、コミュニケーションをしっかりと取り、教科としてのベクトルをしっかりと定めていくことが大切である。
- ・「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」(86.9%)、「大学などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている」(70.2%)、が減少したのは、新型コロナウイルス感染症の影響であると考えられる。しかし、なかなか緊急事態の収束が見えない中、来年度に向けた対策は早期に考えておかなければならない。

【第三回】<2月22日開催>

- ・遅刻が減少したことは良いことであるが、理由に応じて配慮を行うことが必要であると思います。
- ・「学校へ行くのが楽しい」という生徒が減ったのが心配。学校に適応できない生徒が増えているということなので、今後とも細やかな支援が必要であると考えます。
- ・今年度はコロナの関係で、地域連携ができなかったのが学校にとって残念でした。
- ・授業の形態等、アクティブラーニングなど苦労されたと思いますが、家庭科のアクリル板を立てた実習など、良くやっていただいたと思います。
- ・学習支援クラウドサービスについて ソフトウェア会社が管理しているので、突然契約解除される等の心配があるのでは？委員会との連携が必要であると思います。
- ・69期をピークに私学 関関同立 産近甲龍合格者数が減っています。71期、72期は大学が合格者数をしぼり苦戦したが今年度は70期ほどの数字に戻っているようです。各大学は合格者を増やす傾向になってきているため今年の3年生は良い結果が出ているのではないのでしょうか。
- ・関西の高校では、関東と比較して公立高校が頑張っているが、公立もこれからは特色づくりが大切であると思います。少子化の影響が大変心配です。ぜひとも子どもたちのニーズを模索してください。地域との結びつきも大事であると思います。
- ・観点別評価については、生徒に対して評価基準を明確に伝えることが大切です。
- ・大事なことは生徒自身が目的意識を持ち、内発的な動機で学習することです。
「自らの人生」の将来をイメージできるような取り組みが必要だと考えます。
- ・「人間力」や「自己肯定感を育む取り組み」を桜塚はやっていると思います。
- ・部活動ブログの活用は生徒に元気を与えるのではないのでしょうか。
- ・生徒がコロナで目標を持ちにくくなっている。夢を持つことをサポートして欲しいと思います。

府立桜塚高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援する。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。</p> <p>(6) 朝学(総合基礎)を充実させる。SSSC(Sakura Study Seminar Camp)[1年勉強合宿]を生かす。</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を生かし、第一希望の進路実現を図る。</p> <p>(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。</p> <p>(1) 学習支援クラウドサービス、ノートパソコン等を活用した授業形態に取り組む。「調べ学習」「小テスト」「プレゼンテーション」を行うことで、生徒が主体的かつ協同して学ぶようにする。学習動画を取り入れ、学びなおしや基礎固めのサポートに努める。</p> <p>(2) GSCの授業で、4大学から Native English Teacher等の講師を招聘し、Speaking力の向上をめざす。全学年でリスニングテストの実施。英検を1・2年で実施する。</p> <p>(3) 進路講演会の充実及び5:30以降の講習「桜塾」を継続発展させる。</p> <p>(4) アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10年経験者研修受講者及びアドバンスセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。</p> <p>(5) 1年生対象に総合的な探究の時間の実施。キャリア教育の目標を位置づける。2年次は、地域諸団体との連携を模索する。</p> <p>(6) 積極的に取り組まない生徒への指導・補講を行う。SSSCにおいて高校での学習の仕方や授業規律について学ぶとともに、外部講師や卒業生による講演等で自らのキャリアデザイン等を描く。</p> <p>(7) 図書館利用者累計数の増加。図書委員会の活動の促進・カウンター係の仕事の充実化(書架・書庫の系統的な雑誌・書籍の整理)・図書便り(含:新刊書籍紹介)の定期的な発行を通じてのサイン活動の活性化。・年1回以上の校外購入選書の検討。・有効な情報検索と提供・・・コンピュータ利用の活性化。</p> <p>(8) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。第2外国語等専門教育の充実</p> <p>(9) 導入予定の学習動画の自宅での活用も推進する。講習受講や自習室の活用を促す。</p>	<p>(1) 授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、ICT機器や役に立つ教材などをうまく使っている」80%を継続する。</p> <p>(2) 大学出張授業を6回以上実施。事前打ち合わせを十分する。受験者の50%が英検準2級以上、そのうちGSCの生徒は20%以上が英検2級以上。</p> <p>(3) 満足度70%以上</p> <p>(4) 生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」のH31年度62.3%の3%アップ 教員相互の授業見学を全員が取り組む。 教科会議を十分確保する。</p> <p>(5) 新2年総合的な探究の時間で、地域諸団体の連携授業を実施する。</p> <p>(6) 補習の丁寧な実施。 総合基礎(朝学)の上位者表彰の継続。3年めの1年勉強合宿(SSSC)の評価を行う。満足度H31年度55%の5%アップ</p> <p>(7) 図書室の利用者数H31年度2383名の維持。図書だよりの継続発行。図書室でのコンピュータ利用の検討。</p> <p>(8) センター試験の自己採点において、専門コース生徒の全国平均を超える得点を継続する。(H31全体+20、リスニング+2)</p> <p>(9) スマホ・タブレット等を有効活用した勉強法を実施。5:30以降講習受講者の昨年度と同等をめざす。(H31 160名)</p>	<p>(1) 授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、ICT機器や役に立つ教材などをうまく使っている」90%(Av. 3.3)。目標を大きく上回った(◎)</p> <p>(2) コロナ感染拡大を受け、今年度の英検校内一斉実施は取りやめた。大学出張授業は2回実施したが、コロナの影響により大学・ネイティブ講師の都合がつかなくなったため残り4回は中止した。(一)</p> <p>(3) 桜塾の定着率と満足度は満足度7割を上回った。進路支援に関する生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」が、昨年度から6.6%アップし85.3%、「進路についての情報を知らせてくれる」が、4%アップし87.8%になった。(◎)</p> <p>(4) 「授業がわかりやすい」は1.8%ダウンした。授業力向上等検討委員会の10年経験者研修参加者が中心となって、従来の授業相互見学にかえて公開授業を実施する形式を取り、全教職員が参加した。また自主研修も実施し、職員研修では教科でのワークショップ形式を取り入れた。教職員学校教育自己診断「教員の間で授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率が昨年度より8%アップし84.8%になった。さらに、授業アンケート「先生は生徒に主体的に参加できる工夫をしている」は昨年度の3.05から3.24(4点満点)にアップした。(○)</p> <p>(5) 探究におけるキャリア教育の取り組みにより「将来の進路や生き方について考える機会がある」が過去2年間で7.2ポイント上昇した。2年次当初の地域諸団体との連携は年度当初の休校とその後の指導計画の変更に伴い実施に至らなかった。(○)</p> <p>(6) 総合基礎(朝学)を実施し、家庭学習を含めて積極的に取り組むように働きかけた。上位評価「課題に意欲的に取り組んだ」と回答した生徒が全学年で90%以上となった。(○)</p> <p>SSSCについては、本年度コロナのため中止。来年度以降は、年度初めの負担軽減のため、宿泊を伴わずに校内で実施できるように計画を見直す。</p> <p>(7) 図書室のべ利用者数は2600名を超えた。4月から5月に学校休校時があったにもかかわらず、昨年以上の利用者延べ数となっており、生徒たちの間に安定した利用機会を十分に保障できた。(◎)</p> <p>(8) 共通テストの自己採点において、GSC生徒の英語平均(リーディング+リスニング)は130点(センター発表の全国平均は118点)GSS生徒の数学(IA+II B)は115点(全国平均は122点)であった。また、韓国語クラスでは初めて全国韓国語コンテストに複数生徒が出場した。(○)</p> <p>(9) コロナ感染拡大防止に関わる学校休業期間中のオンライン授業実施をきっかけに、生徒PC端末の授業および自宅学習における活用が一気に進んだ。また、5:30以降講習受講者は、授業日数が少ない中にもかかわらず昨年度以上の人数であった。(R2 175名)(◎)</p>

府立桜塚高等学校

2 人間力をつける、規律、安全安心について	<p>2. 人間力をつける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切にする」</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動</p> <p>(4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。保健・安全・衛生管理に留意する。</p>	<p>(1) 「道徳教育の目標」として、ルールとマナーの関係性をグループワークで考えることにより、よりよい社会とのかかわり方について学ぶ。学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。時間を順守することの大切さを再確認する。頭髪、化粧、ピアス、や服装指導の徹底。授業規律も含め決められた規則を守り、礼儀に気をつける。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。</p> <p>(4) 部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。文化祭で演劇の推進。食物アレルギー対応マニュアルを策定し、日ごろから事故防止に努める。熱中症対策マニュアルを策定し、予防の最善準備をする。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率 70%以上を維持。前年度遅刻数の 5%減。服装等指導対象とする。「授業規律」を、教務部、生活指導部、学年の組織で共通認識を持って指導する体制の整備</p> <p>(2) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率平均 8%向上 (H31 年度 62%)</p> <p>(3) 年間 3 回以上の実施継続 (H31 年度 5 回)</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断関連項目 90%以上を維持 (H31 年度 94.2%)。生徒の食物アレルギー情報を把握共有し、各教職員の役割を明確にする。緊急時の対応が迅速にできるようにエビペンの取り扱い等構校内研修を実施する。熱中症計の配備、運用を、生徒教員とも徹底する。</p>	<p>(1) ・生徒向け学校教育自己診断「生活規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」が昨年度より 2.3 ポイントアップ、72.3%となり目標を達成した。(○)</p> <p>・遅刻数は 2093 回であった。昨年度から 17%減り目標の 5%を大きく上回った。(◎)</p> <p>(2) 生徒相談・いじめについてのアンケートを実施するとともに、相談窓口を周知し教育相談体制を充実させたが、生徒学校教育自己診断「担任の先生以外に相談することのできる先生がいる」肯定率平均は 55%と減少した。しかし、「学校はいじめや相談事について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は 8%アップし 79.1%と増加した。(○)</p> <p>(3) 計画していた地域貢献活動、国際交流活動はすべてコロナ感染拡大に伴い中止や延期となり、継続実施できなかった。(一)</p> <p>(4) 今年度は新型感染症のため行事を縮小したが、体育祭での有志パフォーマンスや文化祭での対面発表は何とか実現し、部活動は感染対策の情報を共有しながら継続した。しかし、思うような活動ができなかったことから、教職員向け学校教育自己診断「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」は 86.9%に留まった。(△)</p>
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の発展。「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) 広報活動を積極的に行う。WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。</p>	<p>(1) 0B・0G、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を進展させ、持続的な支援や交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。</p>	<p>(1) 公的機関等と連携し、入学式・卒業式にも臨席依頼し、生徒保護者へも周知する。大学と連携し、授業等を依頼し、生徒の自己実現を支援いただく。生徒による学校教育自己診断肯定的回答 70%以上 (H31 年度 68.2%) キャリア教育と進路実現に繋げる</p> <p>(2) 年 1 回以上の相互訪問や生徒への趣旨説明</p> <p>(3) Web Page を平均月に 8 回以上更新を継続する。(H31 平均月 10 回) 学校説明会参加者数の増加。(H31 年 12 月まで 生徒 691 人、保護者 818 人、計 1,509 人)</p>	<p>(1) 公的機関等との連携で留学生受け入れを実施。しだれ桜の一般公開については、コロナ感染症のため、今年度実施できなかった。また、豊中市との地域連携イベントは本年度全て中止となった。この状況を受け、本年においては、生徒向け学校教育自己診断「豊中市等のイベントにさまざまなクラブが参加するなど地域連携を行っている」の設問について、経年変化の参考にはならないとの判断のうえ削除する事とした。(一)</p> <p>(2) 豊中市社協ボランティアバス事業はコロナ感染症のため、今年度中止となった。大槌高校とは自治会生徒中心に、ビデオレターやメール交換という形式での交流を 2 回実施した。(○)</p> <p>(3) Web Page をリニューアルし、部活動など頻繁に更新する項目についてはブログ形式にした。さらに「Web 版学校説明会」と題し、Web Page での説明を充実させた。ブログ形式にしたことで、更新数は月平均 20 回を超えた。(○)</p> <p>説明会の回数を 2 回に絞らざるを得なかったため、参加者数は生徒・保護者 637 組 (コロナ対応のため、生徒 1 人あたり保護者 1 名と規定) に留まった。(一)</p>
4. グローバルリーダーの育成	<p>4. グローバルリーダー育成</p> <p>(1) 国際社会で通用する人材を育成する。国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組み。ホストファミリーの開拓。海外研修・留学 (長期・短期)・海外進学について、様々な広報、生徒への情報提供、生徒のニーズ把握、生徒を指導するノウハウの獲得等、的確な対応ができる体制の整備を進める。</p> <p>(2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業を依頼する。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 国際交流活動などに取り組み、これを肯定的に評価する生徒 85%以上 (H31 年度 84.3%)</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識。2 回の平均値 3.3 以上 (H31 年度の GS 科目の平均値 3.2)</p>	<p>(1) 海外研修はコロナ感染拡大のため全て中止となった。短期留学生の受け入れはストップしているが、長期留学生に関しては入国規制緩和に伴い 2 か月遅れで 2 名を受け入れている。研修や交流の代替策としてオンライン交流、SNS を使った交流を実施している。日中オンライン交流に関する生徒の満足度は 94.5%であった。(○)</p> <p>(2) 授業評価における「国際理解」「第二外国語」の授業アンケートの平均値は 3.4 と目標を達成した。課題研究についても、GSC が 3.2、GSS が 3.4 で平均値は目標の 3.3 を上回った。(◎)</p>

府立桜塚高等学校

<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p> <p>(1) 全・定併置校の特色を活かした取り組み。 (2) 土曜授業廃止に向け、朝学再構築等</p> <p>(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換をする。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織 (Sakura Project Team) の取り組みを推進させる。新たに創設した「情報部」を機能させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革の継続</p> <p>(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員への OJT 等の充実を図る。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) さらなる発展のために、土曜授業の廃止に向け準備と、朝学の再構築。教育課程の検討や必要な会議の見直しをする。教科会議の設定。</p> <p>(2) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。</p> <p>(4) 昨年度創設した「情報部」の業務のマニュアル化を行いスムーズに引継ぎができるようにする。情報部と事務中心に ICT 関係のインフラ整備を検討する。「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。分掌に位置付けられない組織 (Sakura Project Team) の取り組みをさらに機能させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均 45 時間をめざす。年 2 回の学校休業日を生かす。部活動顧問業務量の平準化の推進。全職員にエアコン環境を確保する。</p> <p>(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員への OJT 等の充実を図る。</p>	<p>(1) 学校運営協議会において、全定に関する提言いただく。肯定的回答 65%以上。(H31 年度 64%)</p> <p>(2) 教育課程改定に向けての教科会議 10 回以上の確保。関連項目肯定率 80%以上を維持。</p> <p>(3) 運営委員会で議論する時間を確保する。肯定的回答 90%維持</p> <p>(4) 情報部の役割を固め、業務のマニュアル化完成。SPT の取り組みをさらに機能させる。</p> <p>(5) 職員研修回数 of 精選を行う。PTA との共催研修を企画する。</p> <p>(6) 全職員残業時間月平均 45 時間をめざす。 全職員にエアコン環境を確保する。</p> <p>(7) 校内研修に加え校外研修も勧め、問題意識を共有する。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率(60%維持)</p>	<p>(1) 全定合同職員会議は、コロナ感染症のため中止。定期的に全定管理職会議を持つことにより協力関係を構築したが、肯定的回答は 58%に留まった。(△)</p> <p>(2) 教育課程改定に合わせて、朝学の内容を抜本的に見直し、来年度から読解力重視の内容に再構築することを決めた。(○)</p> <p>教科会議を 10 回以上確保できたが、教職員向け学校教育自己診断「年間学習指導計画を各教科で話し合っている。」は 70.9%と目標に届かなかった。(△)</p> <p>(3) 運営委員会で意見交換を行い、学校運営の基本的な方向性を確認した。教職員学校教育自己診断「教育活動について教職員で話し合っている。」の結果は 89.6%と僅かに目標に達しなかった。しかしながら、運営委員会等で活発に意見交換を行い、学校運営の基本となる方向性を確認することができたので概ね目標は達成したと言える。(○)</p> <p>(4) 「情報部」の仕事内容を、部員間で効率的に分担できるように取り組みマニュアルを作成した。SPT を活性化し、分掌に位置付けられない業務をチームで分担している。(○)</p> <p>(5) コロナ対応の研修が必要となったため、結果的に回数の精選はできなかった。(△)</p> <p>LGBT をテーマに PTA との共催研修を実施した。(○)</p> <p>(6) 昨年度より全職員平均超過勤務時間は減少したが、月平均 45 時間を超える教諭が 18 名いた。(△)</p> <p>後援会の支援をいただきながら、エアコンのない準備室に冷風扇を 10 台配置した。(○)</p> <p>(7) 校内研修に加えて、30~40 代の教員の校外での研修参加を促すとともに、経験の少ない教職員への OJT 等の充実を図った。教職員学校教育自己診断「本校の研修は質・量ともに充実している。」は昨年度から 11%アップし 70.9%となった (◎)</p>
<p>6. 個人情報等の適正管理</p>	<p>(1) 個人情報等の適正管理</p> <p>(2) 備品等の適正管理</p>	<p>(1) 個人情報等の適正管理をめざす 個人情報廃棄簿の記載等確認の年間計画の作成</p> <p>(2) 備品等の適正管理をめざす</p>	<p>(1) 個人情報の適正管理に関する研修を年 1 回以上実施する。 個人情報廃棄簿の年間計画実施の確認をする。</p> <p>(2) 各室の備品等管理簿 (配置図含む) を作成し更新し、引継体制を強化する。</p>	<p>(1) 個人情報の適正管理に関する研修を令和 2 年 10 月 22 日に実施した。個人情報廃棄簿の年間実施計画の確認を行った。(○)</p> <p>(2) 各室の備品等管理簿 (配置図含む) を更新し、引継ぎが適正に実施されていることを確認した。(○)</p>